

# 副作用のないがん治療をめざして

医学博士 村上正志

医療法人社団貴正会村上内科医院理事長  
京都府立医科大学元客員講師  
日本抗加齢医学会専門医  
日本統合医療学会認定医



私のがん治療の歴史  
抗加齢医学(アンチエイジング)からがん治療(超高濃度ビタミンC点滴)を開始するまで

2005年頃、私のボスの吉川先生(京都府立医科大学元教授、元学長)がすでに抗加齢医学会で頑張っておられ、私は本格的に

抗加齢医学の研究を始めました。初めは見た目のアンチエイジング(美容そのもの)から始めました。すぐに効果もでてきて、たしかに女性はずくに喜ばれますが、私には不満足でした。

その後アンチオキシダントミラクルというバックカー先生の本にあり、アンチオキシダントのすばらしさを感じるようになり、VC、CQ10、グルタチオン、αリポ酸、

VEと、いろいろなものを臨床に応用し、成果もできました。個々のものもすばらしいものですが、ネットワーク機構で効果も増し知れば知るほど人間にとって大事なものだ実感してきました。

アンチオキシダントで心房細動の予防と治療ができること、肝がん発症の予防と治療ができること、脳卒中の人の拘縮をへらし歩行を良くすることなど、臨床的に

実行していきました。

そして、ビタミンCががんに効果があるという論文を知り、興味をおぼえて、自分なりに、我流でVCを投与してしまいました(高濃度の具体例がわからず、また製薬会社に問い合わせたら防腐剤が入っているから2g以上は使わないでくださいと言われました)。

その後、柳澤先生の点滴療法研究会のことを知り、すぐに東京の

研究会に参加して、アメリカで行われている超高濃度ビタミンC点滴を京滋地区で最初に開始しました(2008年春)。



第1回 点滴療法研究会にて

と全身の骨に転移があり余命半年と診断される。2008年9月より超高濃度ビタミンC点滴と抗がん剤にて3カ月後、全身のがんをPET-CT上すべて消し去ることができました(図1)。

## 症例2

59歳・男性。腹部に直径9cmの腫瘍がある悪性リンパ腫で、大病院で2007年より翌年末まで抗がん剤10クール自家移植、放射線治療をするも腫瘍残存。直径3.5cmまで縮小したが、それ以上は治療法がないと言われた人が、本院での高濃度ビタミンC点滴を開始し、半年後CT上腫瘍が消え、そして1年後には完治と主治医に言われました。

## 超高濃度ビタミンC点滴から統合医療に

超高濃度ビタミンC点滴により、良い効果が多数ありました。

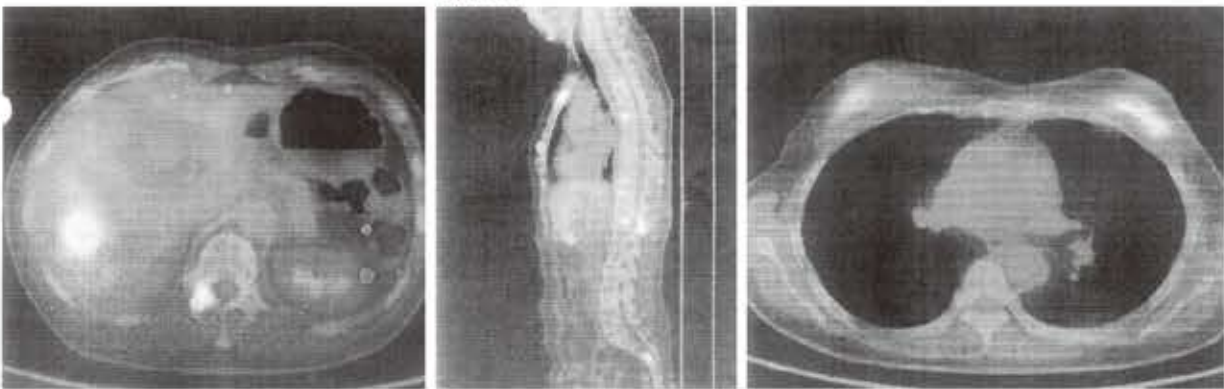
## 症例1

2008年秋に来院した、51歳女性。両側の大きな乳がん、肝臓

しかし、超高濃度ビタミンC点滴が、すべての人に効果があるわけではありませんでした。はっきりした効果がない人もいました。効果のある人となんかの違いを私なりに分析していったところ、いろいろな原因によることがわかりました。

同じような治療をしても、その人の病気のステージ、体力、気力、性格、薬の感受性などさまざま

来院時



3カ月後



図1 症例1